

目 次

まえがき

序	1
第1章 省略文の先行分析と問題点	5
1.1. はじめに	5
1.2. Hankamer and Sag (1976) の削除分析	5
1.3. Williams (1977) のコピー分析	9
1.4. Lobeck (1995) の主要部認可分析	12
1.5. 先行分析の問題点	21
1.5.1. 削除かコピーか？	21
1.5.2. 空所化と擬似空所化	23
1.6. まとめ	27
第2章 省略文の派生：コピーと削除	29
2.1. はじめに	29
2.2. 削除とコピーの認可条件	30
2.3. 仮説の検証	40
2.3.1. 動詞句省略と間接疑問縮約の相違点	40
2.3.1.1. 助動詞要素の残留	40
2.3.1.2. 島の制約効果	46
2.3.2. 動詞句省略，空所化，擬似空所化の相違点	51
2.3.2.1. 残留要素の焦点化	51
2.3.2.2. 分離先行詞	56
2.3.3. 二種類の空所化	60
2.3.3.1. 場面設定の副詞句	60
2.3.3.2. 束縛関係	63

2.3.3.3.	否定辞	66
2.3.3.4.	極性表現	68
2.3.3.5.	動詞と that 節を含む省略	72
2.3.4.	Lobeck (1995) が指摘する「省略」の特徴	78
2.3.4.1.	省略箇所と句範疇	79
2.3.4.2.	従属節における適用	82
2.3.4.3.	後方照応制約と複合名詞制約	86
2.3.4.4.	発話境界	90
2.3.4.5.	まとめ	92
2.3.5.	その他の省略文	92
2.3.5.1.	単一要素残置	92
2.3.5.2.	名詞句内の省略	98
2.4.	他の分析の検討	102
2.4.1.	間接疑問縮約文の削除分析: Merchant (2001)	102
2.4.2.	擬似空所化文の削除分析: Jayaseelan (1990) と Lasnik (1999a)	109
2.4.2.1.	Jayaseelan (1990) の重名詞句移動分析	109
2.4.2.2.	Lasnik (1999a) の Agr 分析	112
2.4.3.	空所化文の移動分析: Johnson (1994, 2009) と Winkler (2005)	117
2.4.3.1.	Johnson (1994, 2009) の全域的移動分析	117
2.4.3.2.	Winkler (2005) の側面的移動分析	128
2.5.	まとめ	135

第3章 省略文に課せられる同一性条件 137

3.1.	はじめに	137
3.2.	先行分析	139
3.2.1.	ラムダ演算子に基づく LF 構造の同一性	139
3.2.2.	統語構造に基づく平行条件	144
3.2.3.	焦点の意味条件	149
3.2.4.	動詞句省略文と間接疑問縮約文の相違点	154
3.3.	提案	157
3.3.1.	PF 構造の同一性条件	157
3.3.2.	動詞句省略文と間接疑問縮約文が示す相違点の説明	159
3.4.	さらなる帰結	165
3.4.1.	動詞の形態的同一性	165

3.4.2. Merchant (2001) の意味分析	171
3.4.2.1. 含意関係に基づく意味条件	171
3.4.2.2. 問題点	175
3.4.3. 先行詞内省略と重名詞句移動	182
3.5. まとめ	187
第4章 動詞句省略文における再分析	189
4.1. はじめに	189
4.2. 提案：空所スロットから代用形への再分析	190
4.3. 仮説の検証	192
4.3.1. 先行詞内省略と外置	192
4.3.2. 動詞句省略からの WH 移動	200
4.3.3. 動詞句省略と再帰代名詞	204
4.4. さらなる帰結	219
4.4.1. 動詞句省略を含む動詞句省略	219
4.4.2. 態の不一致	224
4.4.2.1. 動詞句省略文における態の不一致	224
4.4.2.2. その他の省略文における態の不一致	229
4.5. まとめ	235
参考文献	237
索引	245